

賢い子の”基礎”を育てる国語指導

▶ 2023.8.15(火)

お子様を賢い子に育てたいお母さんへ

お子様に、”いい文章”をいっぱい読ませて下さい。いっぱいです。いっぱい！
これが学力の基礎を培う”見えない”学習法だからです。

あらゆることは”日本語”で考える

あらゆる教科での学習は、日本語で情報を集め、日本語で考え、日本語で答えます。
つまり、問題を”読んで”設問の内容と条件を理解し、答えを作るための情報を集め、それらを使って考え、解答を書く、というプロセスは、すべて日本語で行います。
これら一連の作業をスムーズにこなせないとは問題は解けません。
子どもがもっている現在の日本語の”能力”が、一連の問題が解けるかどうかを左右することは自明のことです。

例えば、問題文の中に「10に対する5の割合を、百分率で答えなさい。」という表現があるとき、最初にやる作業は、この日本語が表す意味を読み取ることです。
ここができないと問題は解けません。
 $10 \div 5 = 2$ と答えた人は、この情報の意味をまったく理解していません。
”日本語の意味”がとれていないのです。

学ぶべき”いい”文章とは何か

ここで注意することは、”いい”文章というときの”いい”の意味です。
無条件に”いい”文章などありません。
その文章を読む人の読む目的によって”何がいいのか”が決まります。
ここで考えているのは”勉強する力を身につけるための”いい文章とは何か、ということです。
それは、

- ・文章の中から必要な情報を集める力、
- ・文章をまとめて言い換える力（要約して相手に簡潔に情報の要点を伝える力）
- ・与えられた条件で表現する力（問われたことに的確に返答できる力）

を育ててくれる文章のことです。

これらの力を育てるのに最良な教材は、入試問題です。
小学生の場合では、国立や私立の中学校の入試で、実際に出題された問題です。
なぜならば、入試問題というのは、その学校に入学するのにふさわしい学力があるかどうかをチェックするために、その学校が総力をあげて1年間かけて作成した問題であるからです。

これ以上のいい問題などあるわけがありません。

ここまでがわかると、国語の学習方法はすぐにわかります。

そうです。入試で出題された国語の問題を学習すればいいのです。

難しいのは、この過去問をどんな順序で、どのような方法で学習させるか、ということです。

いきなり難しい問題をやらせても、解けません。

時間だけむだになりますし、子どもがやる気をなくします。

問題のレベル分けと配列(学習順序)は、子どもにやる気をださせ、学習能力を確実にレベルアップしていく上で最も大切なことですし、素人には手におえないことです。

長い指導経験が必要ですから、ここは専門家をお願いするしかありません。

もし、お子様がただ「過去問を解くだけ」の指導を受けておられますと…(次の項目へ)

文章の読解方法

「ただ設問に答えるだけ」の学習をやっていても読解技術を身につけることはできません。

読解の秘訣は、「”根拠”や”理由”をはっきりと示して答えを書く」ということです。

そのように思って答えを書いた、ではダメです。

「ここに、このように書いてあるから、このような答えになる」と答えを作った根拠を問題文の中に書き込んで示すことです。

示せないときは、答えが”あやしい”ということです。

そのときには、もう一度文章を読み直します。

殊に、まちがえて答えたとき、”なぜそこが答えの根拠にならないのか”を説明できれば、そのようなまちがいをすることがなくなります。

まちがいを学力に転化できます。マイナスをプラスに変える学習になります。

数専ゼミの国語指導法

では、具体的にどのように学習したらいいのか。

数専ゼミの指導法を紹介しましょう。

→ Link: | 論理で学ぶ数専ゼミ国語コースのご案内 |

(ブラウザのバック矢印でこの文書に戻ることができます。)

賢い子の”基礎”を育てる国語指導

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp